



**塩崎 一成**  
(日本大学松戸歯学部 解剖学講座)

**『顎関節の成長・成熟・老化  
～一生を通した構造変化の理解～』**

**<要旨>**

顎関節は、成長期から老年期に至るまで構造的・機能的に変化している。乳幼児期から成長期にかけて下顎頭軟骨の成長や咬合発達が顎関節形態に影響を与え、成熟期には機能負荷への適応が維持される。一方、老年期には加齢に伴う骨形態変化や軟骨・線維組織の変性が顎関節の構造変化の背景となる。本講演では、顎関節をライフステージの視点から捉え直し、各時期に特有の構造を整理することで、生涯を見据えた診断と対応への理解を深めることを目的とする。

**<講演内容>**

- I 顎口腔系における顎関節の構造
- II 顎関節の発生と成長発育
- III 顎関節の加齢変化

**<専門医カリキュラム>**

- ・顎口腔系の構造を説明できる
- ・顎口腔系の機能を説明できる
- ・顎口腔系の発生、成長・発達、加齢変化を説明できる

**<略歴>**

- 2001 年 東京歯科大学卒業  
2005 年 東京歯科大学大学院歯学研究科卒業 博士（歯学）  
東京歯科大学解剖学講座 研究助手  
鶴見大学解剖学第一講座 助手  
2007 年 鶴見大学解剖学第一講座 助教  
2013 年 鶴見大学口腔解剖学講座 講師  
2014 年 アメリカ ミネソタ大学生物診断学講座 客員教授  
2018 年 鶴見大学口腔解剖学講座 准教授  
死体解剖資格（系統解剖）  
2025 年 日本大学松戸歯学部解剖学講座 教授

**<代表的所属学会等>**

- 日本顎関節学会：専門医等認定委員、学会賞選考委員  
日本解剖学会：代議員  
歯科基礎医学会：代議員  
Society of Neuroscience



廣瀬 尚人  
(広島大学病院口腔健康発育歯科 矯正歯科)

### 『小児育成系における頸関節』

#### <要旨>

本邦における頸関節症の有病率は約 30% と報告されており、思春期から 20 歳代にかけて症状が顕在化し、歯科医療機関を受診する症例が多い。一方、より低年齢の小児における頸関節症については、有病率や病態に関して未解明な点が多く、本学会会員においても対応に苦慮する場面が少なくないと考えられる。

本講義では、小児頸関節症の臨床的特徴および頸顔面成長に及ぼす影響について、既存の文献ならびに我々の調査結果を基に考察する。さらに、小児頸関節症を早期に発見するためのポイントや、治療に際して留意すべき事項についても概説する。

#### <講演内容>

- I 小児の頸関節症の有病率とその特徴
- II 小児の頸関節の構造および成長様式
- III 早期に発症した頸関節症
- IV 小児の頸関節症への対応～基本と発展～
- V 矯正歯科医から見た注意すべき咬合

#### <専門カリキュラム>

- ・医療面接を実施できる
- ・口腔内の診察を実施できる
- ・咬合治療を行える
- ・医療安全に沿った診療が実施できる
- ・EBM の重要性を説明できる

#### <略歴>

- 2006 年 3 月 広島大学歯学部卒業
- 2006 年 4 月 広島大学病院歯科研修医
- 2011 年 3 月 広島大学大学院歯学研究科修了 博士（歯学）
- 2013 年 11 月 広島大学大学院医歯薬保健学研究科 歯科矯正学 助教
- 2018 年 4 月～ 広島大学病院矯正歯科 外来医長
- 2021 年 4 月 広島大学病院口腔健康発育歯科 矯正歯科 講師
- 2022 年 10 月 広島大学病院口腔健康発育歯科 矯正歯科 診療准教授

#### <代表的所属学会等>

- 日本頸関節学会：認定歯科頸関節症専門医
- 日本矯正歯科学会：認定医・指導医・代議員
- 日本顎変形症学会：認定医
- 日本口蓋裂学会：認定師
- 中四国矯正歯科学会



## 白田 頌

(慶應義塾大学 医学部 歯科・口腔外科学教室)

### 『仕事、子育て世代の頸関節症』

#### <要旨>

仕事・子育て世代である 30~50 代は、「長時間のデスクワーク、育児や介護負担、睡眠不足などにより、咀嚼筋に負担がかかっている」と、日常診療や自身の生活の中で感じたことはありませんか？

しかし、実際には頸関節症がこの世代に特異的に多いわけではありません。一方で、この世代では緊張型頭痛を含めた慢性頭痛の訴えが多くみられます。実はこの「慢性頭痛」と「頸関節症」、とくに咀嚼筋痛との間には深い関係があります。

本講演では、慶應義塾大学病院頸関節症・口腔顔面痛外来での臨床統計をもとに、「慢性頭痛」と「頸関節症に起因する頭痛」の病態と診断の要点を整理し、慢性頭痛の治療および予防における咀嚼筋ケアの重要性を示します。さらに、忙しさから受診が遅れやすい世代を念頭に、IT を活用した診療・セルフケア支援や予防戦略を紹介し、継続可能な頸関節症診療の実践を提案します。

#### <講演内容>

- I 仕事・子育て世代における頸関節症診療の特徴
- II 慢性頭痛と頸関節症、とくに咀嚼筋痛との関連  
(頸関節症に起因する頭痛)
- III 咀嚼筋ケアを中心とした治療および予防の考え方
- IV 忙しい世代に適した診療支援・セルフケア支援の提案

#### <専門カリキュラム>

- ・頸関節症の病態を説明できる（とくに咀嚼筋痛障害）
- ・頸関節症の診断および病態診断ができる
- ・頸関節症類似の臨床症状を呈する疾患と鑑別できる（頭痛を含む）
- ・生活指導、理学療法を行える

#### <略歴>

- 2006 年 東京歯科大学歯学部 卒業  
慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室 入局  
2008 年 多摩北部医療センター 歯科口腔外科 医員  
2015 年 慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室 助教  
頸関節障害外来・口腔顔面痛外来 担当責任者  
睡眠センター 兼務

#### <代表的所属学会等>

- 日本頸関節学会：認定歯科頸関節症専門医、暫定指導医、教育検討委員会 副委員長  
日本補綴歯科学会：専門医  
日本口腔顔面痛学会：専門医、理事、評議員、ITC 活用委員会 委員長  
日本いたみ財団：いたみ専門医  
日本老年歯科医学会：認定医

#### <その他>

- 2018 年～ セルフケア指導アプリ「慶應いたみケア」開発  
2021 年～ 歯科医師向け診療補助ツール「いたみ診療お助け LINE」開発  
2021 年～ 日本口腔顔面痛学会発 Web 学習アプリ  
「アプリで学ぶ口腔顔面痛」企画・開発  
2025 年～ 一般向けセルフケア指導アプリ「新いたみケア」開発



## 西山 晓

東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 総合診療歯科学分野  
東京科学大学病院 頸関節症外来

### 『中高年における心身の変化と頸関節症』

#### <要旨>

頸関節症の有病率は、かねてより 5~12%程度と言われていますが、昨今の研究報告では 20~30% 以上が罹患している可能性があることも報告されています。また、有病率は年代によっても異なり、病態やリスク因子についても、各年代特有の状況が考えられます。

今回、中高年（45~70 歳）における頸関節症に注目し、中高年における一般的な心身の変化と、頸関節症症状の特徴、さらには、その特徴に注目した治療対応について解説してゆく予定です。

#### <講演内容>

- I 中高年的心身の変化
- II 中高年の頸関節症の特徴
- III 中高年の頸関節症に対する治療

#### <専門カリキュラム>

- ・頸関節症の疫学的特徴を説明できる
- ・頸関節症の発症メカニズムと症候、継発する病態を説明できる
- ・頸関節症以外の頸関節疾患と鑑別できる
- ・各病態に対し治療・管理目標を設定できる
- ・生活指導、習癖の指導を行える

#### <略歴>

- 1995 年 3 月 東京医科歯科大学歯学部卒業  
1999 年 3 月 東京医科歯科大学歯学部大学院修了 歯学博士号取得  
2002 年 6 月 東京医科歯科大学大学院 部分床義歯補綴学分野 助教  
2007 年 4 月 東京医科歯科大学 歯学部附属病院 頸関節治療部 助教  
2016 年 4 月 東京医科歯科大学大学院 口腔顔面痛制御学分野 講師  
2021 年 12 月 東京医科歯科大学大学院 総合診療歯科学分野 准教授  
(2021 年 10 月より 東京医科歯科大学病院 頸関節症外来 診療科長)  
2024 年 10 月 東京科学大学大学院 総合診療歯科学分野 准教授  
東京科学大学病院 頸関節症外来 診療科長

#### <代表的所属学会等>

- 日本頸関節学会 理事 (認定歯科頸関節症専門医・指導医)  
日本頸関節学会主催 DC/TMD 認定セミナー修了  
日本演奏家芸術医学会 理事



## 大井 一浩

(金沢大学大学院医薬保健学総合研究科  
外科系医学領域顎顔面口腔外科学分野)

### 『高齢者の顎関節障害 ～退行性変化と脱臼への包括的対応～』

#### <要旨>

高齢者における顎関節障害は、加齢に伴う下顎頭の退行性変化、歯の欠損による咬合支持の低下、全身疾患や認知機能低下などが複雑に関与し、診断・治療に難渋することが少なくありません。とくに顎関節脱臼は高齢者に多く、低侵襲かつ全身状態に配慮した対応が求められます。

本講演では、高齢者を中心に顎関節の退行性変化と顎関節脱臼の病態を整理し、保存療法から低侵襲外科治療までの治療戦略を概説します。あわせて、習慣性顎関節脱臼に対する自己血注射療法を含む低侵襲治療の実際と適応について紹介し、高齢者の顎関節障害に対する包括的な対応を提示します。本講演が日常臨床の一助となれば幸いです。

#### <講演内容>

- I 高齢者における顎関節障害の病態と特徴
- II 高齢者顎関節障害に対する保存療法と  
低侵襲治療
- III 顎関節脱臼に対する低侵襲外科的治療

#### <専門カリキュラム>

- ・顎口腔系の発生、成長・発育、加齢変化を説明できる
- ・顎関節症の病態を説明できる
- ・画像検査所見を説明できる
- ・顎関節症の診断および病態診断ができる
- ・顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる
- ・各病態に対し治療・管理目標を設定できる

#### <略歴>

- 2000年3月 北海道大学歯学部卒業  
2000年4月 北海道大学大学院歯学研究科口腔顎顔面外科学教室 研修医  
2005年3月 北海道大学大学院歯学研究科修了・博士（歯学）  
2005年4月 市立砺波総合病院歯科口腔外科 医員  
2007年4月 北海道大学病院歯科診療センター 医員  
2012年4月 市立砺波総合病院歯科口腔外科 医長  
2014年10月 金沢大学附属病院歯科口腔外科 講師  
2023年4月 金沢大学附属病院歯科口腔外科 病院臨床教授
- 2016年5月-2017年3月 Musculoskeletal Biology, Institute of Ageing and Chronic Disease,  
University of Liverpool, UK (Honorary Research Fellow)  
2023年5月-2023年10月 Regional Maxillofacial Unit, Aintree University Hospital, UK  
(Honorary Visiting Professor)

#### 代表的所属学会等：

- 日本顎関節学会 認定歯科顎関節症専門医・指導医、理事  
日本口腔外科学会 専門医・指導医  
日本顎変形症学会 認定医・指導医、評議員  
American Society of TMJ Surgeons (ASTMJS) International member